

そよかぜ診療所／はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医 堀 秀輔

現行の初期臨床研修プログラムにおいては 1 カ月以上の地域医療研修は必修となっている。神戸大学医学部附属病院研修プログラムではそよかぜ診療所をはじめとする複数の研修先の中から自分の希望の研修先を選択し春先に決定される。私がそよかぜ診療所における研修を希望したのは今まで経験したことがない診療所での研修を行いたいと思ったからだ。普段研修医は複数の診療科を標榜しており設備的にも整った比較的大きな病院で研修を行っている。それは診療や手技の技術が不十分な研修医が経験を積むうえでは効率的だ。しかし、それでは悪くなってしまった後の患者の姿しか知ることができないという側面もあるだろう。大学病院に紹介になるような患者は診療所やクリニックからの紹介が主であるが、かかりつけ医として患者の生活まで診ているのはそういった診療所やクリニックなのである。

寒さ厳しい朝来の 12 月、診療所内の 1 室をお借りして住み込みで研修生活を送った。最初の数日こそ環境の変化に戸惑うこともあったが、スタッフの方々のサポートもあり何事もなく研修に集中することができた。

日々の研修では採血、エコーといった手技や訪問診療を経験したが、印象深かったのはやはり訪問診療である。訪問診療は患者の自宅やグループホームなどの介護施設に赴くことになるが、当然そこにはレントゲンが撮影できる設備や血液検査機器はない。患者との問診、身体診察を通じてそうした検査が必要なのか、あるいは経過観察が可能なのかを判断しなければならない。検査値は客観的なものであり医療者側の主観が入り込む要素は少ないが、問診は患者の訴えを解釈し、医療的な情報としてまとめる能力が必要とされる。また、患者の心の内を話してもらうのにも患者と医療者の間での信頼関係を築かなければならない。前半の 2 週間は静子先生と一緒に訪問診療に回らせていただいたが、静子先生は患者一人一人それぞれに適したコミュニケーションを取られていたように思う。後半 2 週間は医師は私一人で訪問したが、その際も静子先生のことを気に掛け慕う患者さんが何人もいた。私も患者に安心感を与え信頼される医師になりたいと改めて強く思った。

そよかぜ診療所で過ごしたのは 1 カ月という短い期間でしたが、自分を大きく成長させてくれました。

先生方、看護師・スタッフの方々、そしていつも温かく美味しいご飯を御馳走して頂いた岡本家の皆様には心から感謝申し上げます。

朝来にいらっしゃる全ての皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。